

The continuing professional development experiences and needs of English language teachers - Countries: China, Japan and Korea

日本・中国・韓国 英語教員研修 現状とニーズ調査： 日本向け要約

November 2022

[The continuing professional development experiences and needs of English language teachers - Countries: China, Japan and Korea](#)

Contents

はじめに.....	3
日本向け要約まとめ.....	4
調査概要.....	4
A. アンケート調査結果概要.....	5
1. 向上させたい指導スキル: 「学習者の動機づけ」や「スピーキング指導」.....	5
2. オンライン研修に求めるもの: 重要なのは「授業での問題解決に役立つ」こと.....	7
3. 研修に対する見解: 「研修時間がない」、「オンラインよりも対面で受けたい」.....	8
4. 研修を受けたい分野: 「指導のための英語力を高めたい」.....	9
5. 研修を効果的にするための提案: 指導のための英語力向上.....	10
B. インタビュー調査結果概要.....	12
6. 研修内容に対するニーズ.....	12
7. オンライン研修に対する態度.....	13
8. 自国政府教育機関とオンライン研修.....	13
9. リアルタイムかオンデマンド(録画)か.....	14
10. 今後の研修.....	14

修正:5 ページ 図3 指導を向上させたい分野: 韓国(n=273)のグラフに誤りがございましたので、修正いたしました。(2022.12.16)

はじめに

学校教育の成否は、教師の力と指導の質に大きく依存しています。そのため、効果的な実践に必要な知識やスキルを維持・向上するために、教員にはキャリアを通じ継続した専門能力開発の機会が不可欠です。日本においては教員免許更新制の発展的解消を受け、2023年度から資質向上に対する「新たな教師の学び」のガイドラインが設定されます。

2000年代以降、専門能力開発の機会はトップダウンから教師主導のアプローチへ移行し、対面に加えオンラインが加わるなど多様化しました。特に新型コロナウイルス感染症の拡大はオンラインでの実施に拍車をかけました。国際的には専門能力開発について多くの研究蓄積があるものの、この急速な変化の中で、特にオンライン研修の現状については十分に理解されていない面もあります。

このような状況の中、ブリティッシュ・カウンシルは、日本・中国・韓国の公立学校で勤務する英語教師の専門能力開発の状況調査をトリニティ・カレッジ・ロンドンに委託しました。調査報告書は、3カ国の現状や教師のニーズ、期待や課題などを示しており、日中韓の英語教師のニーズの違いからも興味深いものが読み取れます。調査報告書(英文)は[こちら](#)からご覧いただけます。

なお、この「日本向け要約」は、英文の調査報告書から、**日本の教育関係者に関心が高いと思われる部分を抜粋・暫定訳・再編集**したものです。英文報告書の補足資料としてご参照ください。記載内容や表現が異なる場合、英語が優先します。またこの要約においては、広く教師の資質向上のための取組を「研修」と表記しています。

調査報告書(英文)

[The continuing professional development experiences and needs of English language teachers - Countries: China, Japan and Korea](#)

日本向け要約まとめ

調査では日本・中国・韓国の公立学校に勤務する英語教師に、教員研修についての現状とニーズを尋ねました。この調査分析からは日本について以下のことが示されました。

- 日本の教師が指導力を向上させたい分野として、学習者の動機づけやスピーキング指導、批判的思考や創造力などの 21 世紀型スキルなどに関心が強い。
- 英語力研修の必要性を訴える声も多く寄せられた。これには、生徒の英語力を育成する教科であるため、①教師の英語レベルを維持・向上したい(生徒に合わせた英語使用、使用機会が限定されると英語力が低下する等)、②指導のための効果的な英語使用について学びたい、の 2 つに大別される。
- 日本の教師は非常に多忙で、中国と韓国に比べて、研修時間を確保できないことが大きな課題である。研修を受ける時間に大きな制約があるにも関わらず、教員研修に対して強い意欲を示した。
- オンライン研修に求めるものは「授業に役立つこと」である。オンライン研修の利点に対する認識はおおむね一致しているが、7 割の教員が「対面研修」を希望している。同時に、オンライン研修に対する新たな工夫や英語での研修実施を求める声がある。
- 3 カ国を比較すると、日本は一般的に研修に対する満足度が低い。研修を充実するためには、この点について別途調査を行うことが望ましい。

調査概要

1. 調査期間 2021 年 11 月から 2022 年 4 月
2. 対象 日本、中国、韓国の公立小学校・中学校・高等学校の教員
3. 調査方法 オンライン調査およびオンラインインタビュー(一部対面)
4. 有効回答数 7259(中国:6,469、日本:394※、韓国:396)
内インタビュー回答者数 106(中国:74、日本:11、韓国:20)
※日本の校種別内訳は、小学校教員 21%、中学校教員 28%、高校教員 51%
5. 備考
・調査はオンラインのみで実施し、地方自治体・関連団体(ブリティッシュ・カウンシルを含む)やソーシャルメディアを通じて協力を依頼した。
・実施時期は新型コロナウイルスの世界的流行の終盤である。
・調査項目は英語で作成され、その後各国の言語に翻訳され、実施した。
・日本において回答者地域の偏りは見られたが、回答者地域別回答率には大きな差は見られなかった。
・中国には独自の調査項目が追加され、地域や経済格差を考慮した上でデータ収集・分析を行った。

質問内容

研修実施団体の認知度／教員として上達させたいスキル／対面研修を受講した際の学習活動や実施団体・費用負担／オンライン研修を受講した際の学習活動や実施団体・費用負担／オンライン研修受講に際し重視すること／よく使用するアプリやソーシャルメディア、使用機器、インターネット環境／教員研修に対する見解／研修を受けたい分野、研修を効果的にするための提案(自由記述) 等

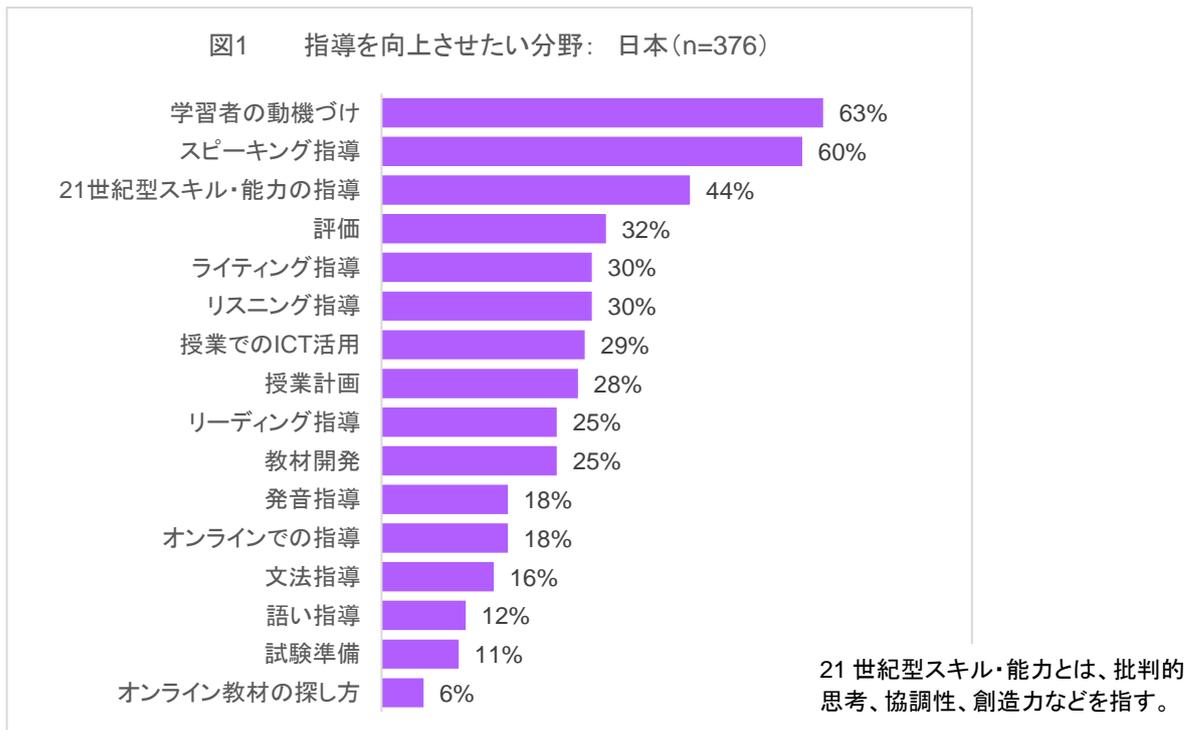
ここでは概要のみを記載しております。詳細は、[調査報告書\(英文\)](#)をご覧ください。

A. アンケート調査結果概要

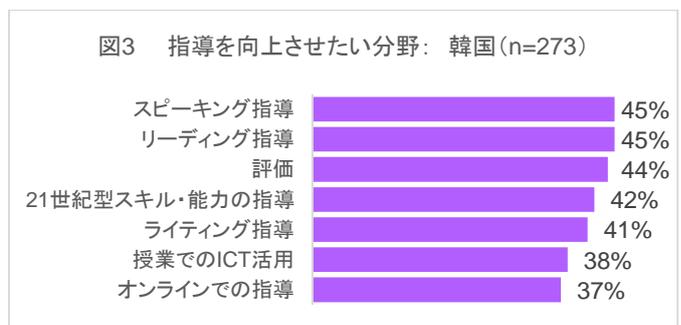
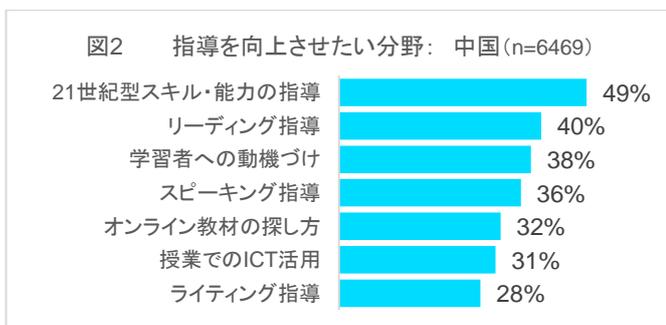
1. 向上させたい指導スキル：「学習者の動機づけ」や「スピーキング指導」

- 日本の教師が指導を向上させたい分野は、「学習者の動機づけ」(63%)、「スピーキング指導」(60%)、「21世紀型スキルの指導」(44%)。ニーズが低いのは、「オンライン教材の探し方」(6%)、「試験準備」(11%)、「語い指導」(12%)であった。

Q: 以下のリストから、教員として上達させたいスキルを最高で5つまで選択してください。



- 中国の教師にとって最も関心が高い分野は、「21世紀型スキルの指導」(49%)で、「リーディング指導」(40%)、「学習者の動機づけ」(38%)が続く。
- 韓国の教師の上位は、「スピーキングの指導」(45%)と「リーディングの指導」(45%)で、「評価」(44%)、「21世紀型スキルの指導」(42%)、「ライティング指導」(41%)が続く。日本や中国の回答者に比べてスキル別指導への関心がより強く示された。
- 「試験準備」は、3か国共通してニーズが低かった。



- 日本の中学校・高校と小学校の教師が求めている内容を比較すると、「学習者の動機づけ」に対するニーズはどの校種でも高いが、特に小学校は7割以上がこれを重要視している。また小学校は、中学校・高校に比べ「授業計画」の方法を求めている向きが強い。
- 中学校・高校においては、「スピーキング指導」(中 66% 高 60%)「21世紀型スキル・能力」(中 42% 高 49%)のニーズが高いことが顕著に見られる。生徒の年齢が上がるにつれて、より技能中心の実践的な英語指導を行う必要性が上がり、そのための能力開発を求めていることがうかがえる。

図4 研修を受けたい分野：日本－高校

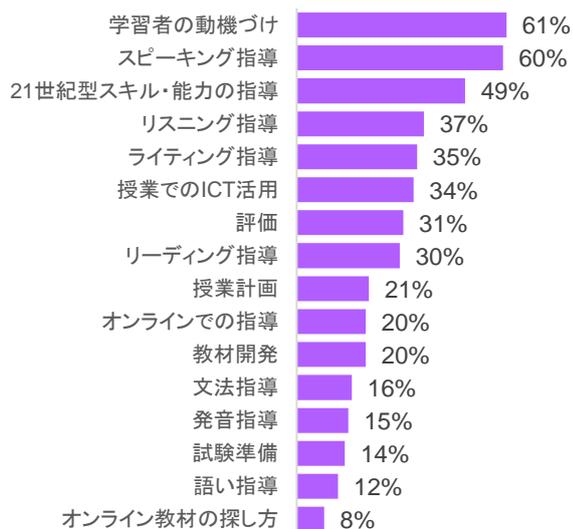


図5 研修を受けたい分野：日本－中学校

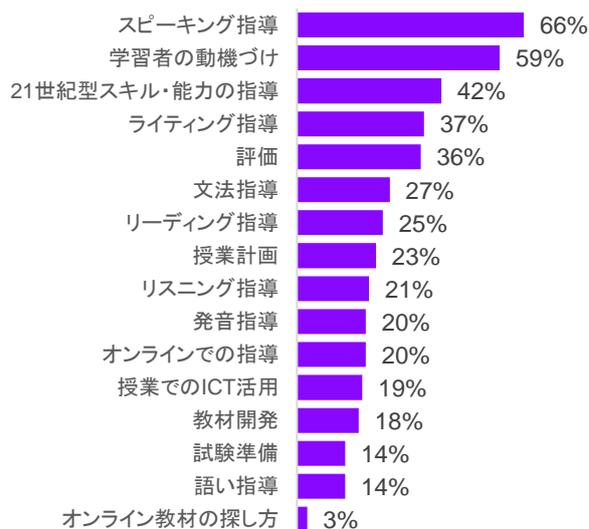
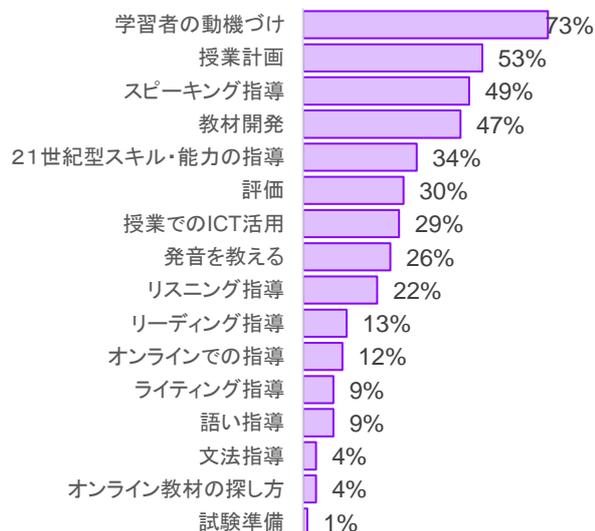


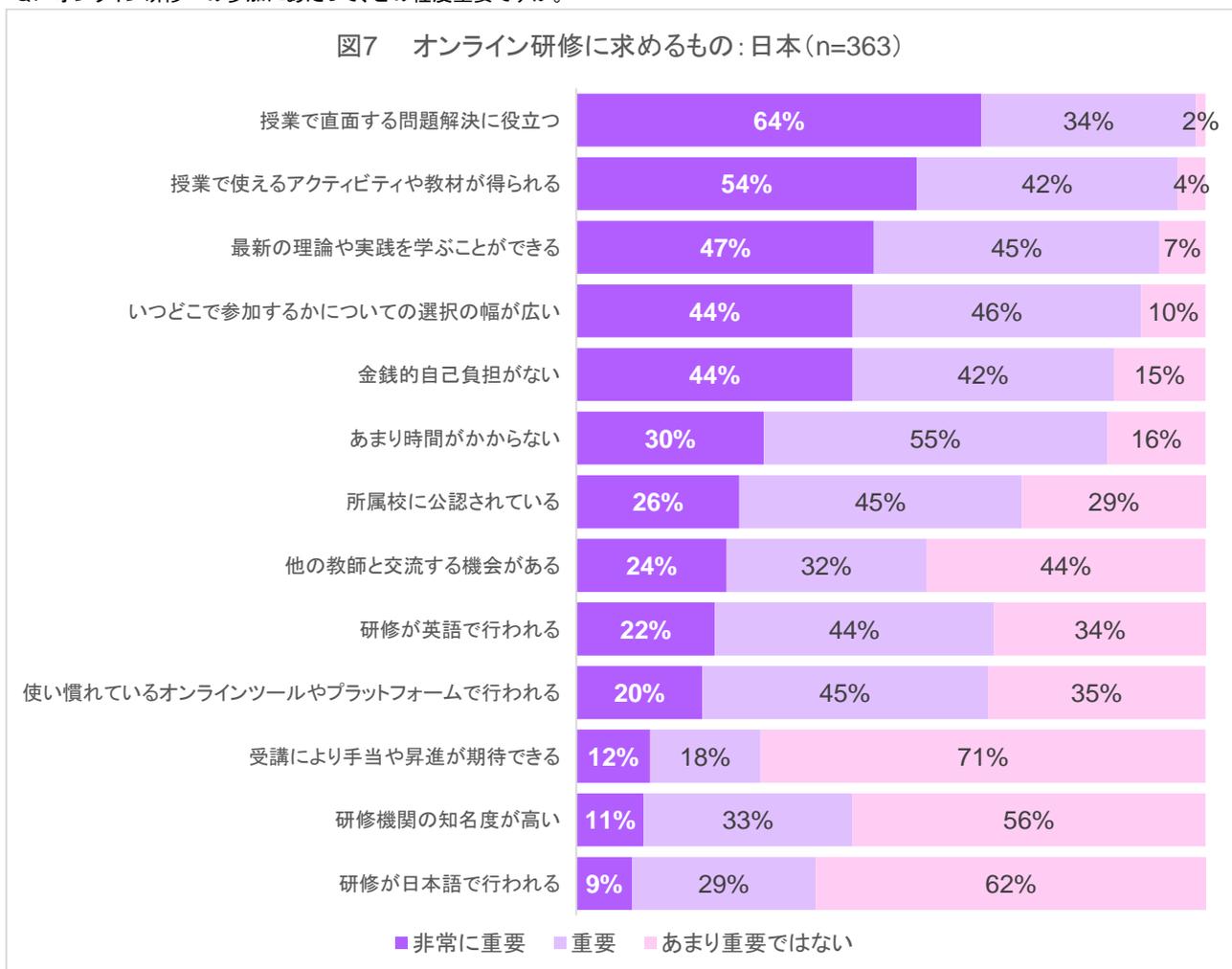
図6 研修を受けたい分野：日本－小学校



2. オンライン研修に求めるもの: 重要なのは「授業での問題解決に役立つ」こと

- 日本の教師がオンライン研修受講に際し重視することとして、「授業で直面する問題解決に役立つ」を選択した回答が小中高のどの学校種にも高く、97%以上が「非常に重要」「重要」と回答した。また、9割を超える教師は「授業で使えるアクティビティや教材が得られる」「最新の理論や実践を学ぶことができる」点も重視している。
- 小学校で目立ったポイントは、「他の教師と交流する機会がある」(非常に重要 32%、重要 50%)で、中学校・高校より、「研修が日本語」であることを重視していた(同 16%、43%)。ただし、「研修が英語」であることを重視する割合は同 19%、53%であるため、一概に日本語での研修ニーズが高いとは言えない。
- 日本、中国、韓国の3か国で比較すると、共通して「授業で直面する問題解決に役立つ」「授業で使えるアクティビティや教材が得られる」「最新の理論や実践を学ぶことができる」の3つを優先していた。
- 3か国に共通してあまり重要と考えていないことは、研修が母語で行われることであった。「受講により手当や昇進が期待できる」を重要とした割合は、日本が12%、18%と最も低く、中国は31%、41%、韓国は12%、26%であった。

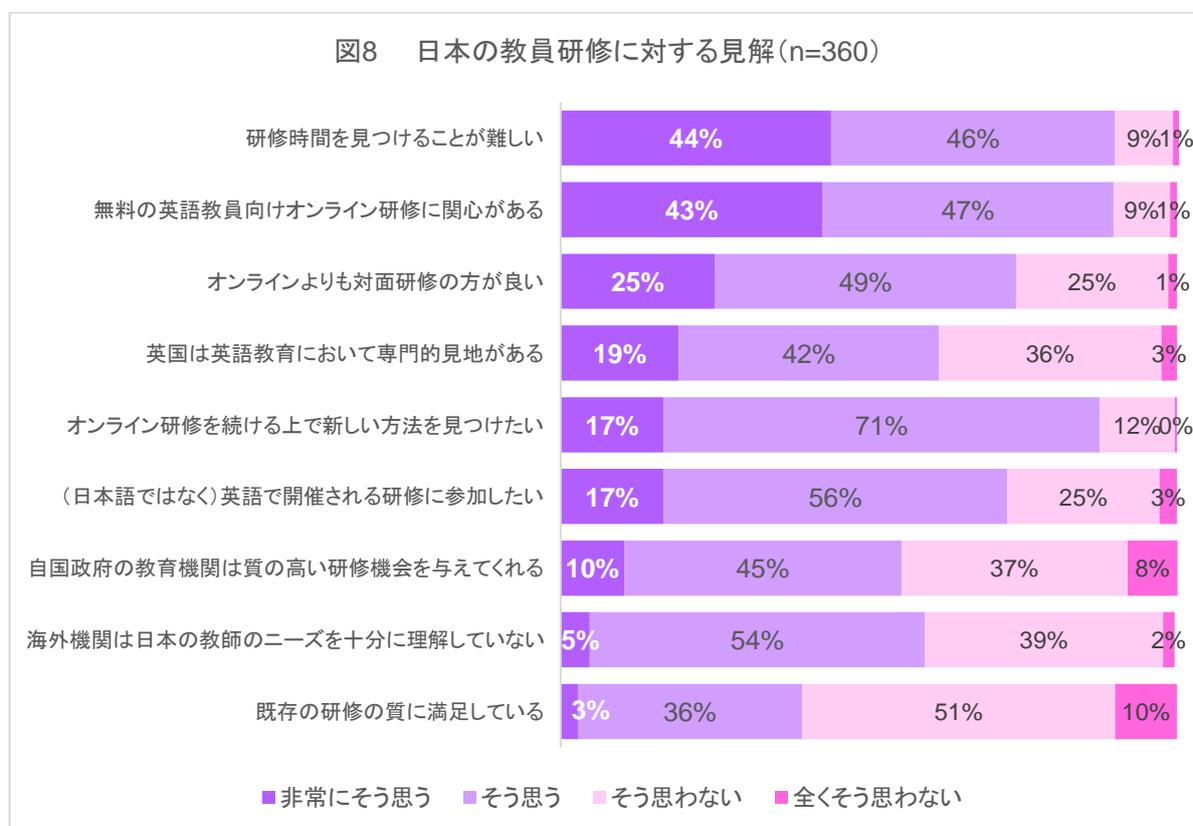
Q: オンライン研修への参加にあたって、どの程度重要ですか。



3. 研修に対する見解:「研修時間がない」、「オンラインよりも対面で受けたい」

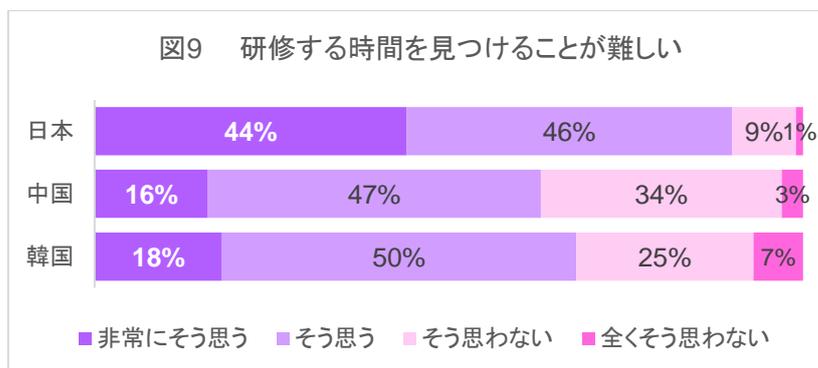
- 日本の教師の90%は、「教員研修の時間を見つけるのが難しい」「無料オンライン英語研修に関心がある」と回答。88%は「オンライン研修の新しい方法を見つける」ことに強い関心があることがうかがえた。
- 「(オンラインより)対面」、「(日本語より)英語で開催」に対する関心も7割を超えた。
- 日本の中学校・高校と小学校の教師の見解を比較すると、「英語で開催される研修」に対するニーズは中高において特に高く、「非常にそう思う」「そう思う」を合計すると8割近くとなる。一方小学校教師においては約5割だった。
- 39%が「既存の研修の質に満足している」と回答し、日本の教師の研修に対する支持率は非常に低かった。中でも中学校が「全くそう思わない」「そう思わない」と回答した割合の合計が66%(8%、58%)で高かった。しかし、「全くそう思わない」という回答だけを見ると、高校の回答が一番多い(11%)。

Q: 日本における教員研修について、「非常にそう思う」「そう思う」「そう思わない」「全くそう思わない」のいずれかで答えて下さい。



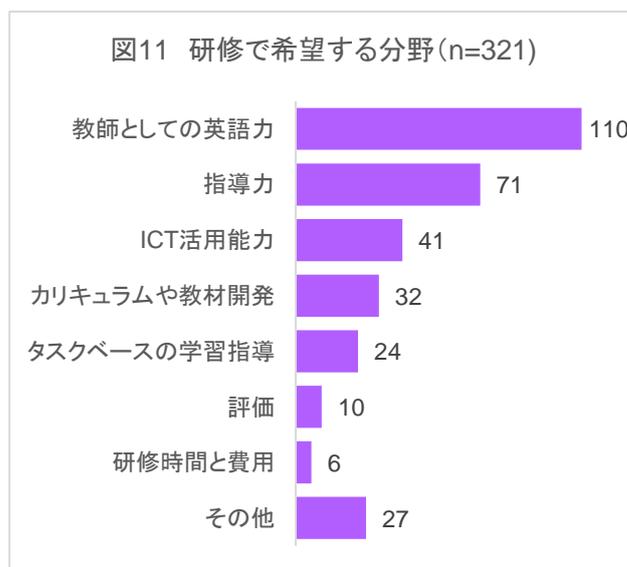
- 「無料の英語教員向けオンライン研修に関心がある」「オンライン研修を続ける上で新しい方法を見つけたい」という割合は、3か国共通して高かった。また、既存の研修に対する支持率は日本が非常に低く、61%は「既存の質に満足していない」と感じている。これに対して、中国では83%、韓国は87%が満足していると回答した。
- 中国の教師は自国政府の教育機関の研修に概ね満足しているが、研修時間が十分ないと感じる教師が多い。言語に関しては、英語と中国語の両方で行われる活動を歓迎していると見受けられる。
- 韓国の教師は、中国と同様にオンライン研修、特に無料教材や新しい方法に関心が高い。韓国語よりも英語での研修を望み、オンライン研修への意欲はあるものの、過半数が対面を希望している(61%)。

- 日本と中国・韓国を比較し、日本のみ顕著に目立ったのは教師の忙しさであった。44%が「研修時間を見つけることが非常に難しい」と回答しており、日本の教員の際立った多忙ぶりがうかがえる。



4. 研修を受けたい分野:「指導のための英語力を高めたい」

- 「今後の教員研修について希望すること」(自由記述回答)について尋ねたところ、日本の教師からは回答者の8割以上にあたる321の回答が寄せられた。
- 回答者の30%が今後研修を希望する分野として、「教師としての英語力」をあげた。具体的には「授業で英語使用を増やすための授業実践」、「教師の英語を維持する機会」、「自分自身の語彙や発音を向上させる」などがあり、生徒の英語力を向上させる上で重要な分野と捉える教師が多いことがうかがえる。また英語力を維持・向上させるための「海外研修」を希望する声も多く寄せられた。
- 2番目に多くあげられた分野は「指導力」で、回答参加者の22%(71件)を占めた。「スピーキング指導」「授業運営」、「具体的な授業実践例」、「学習意欲の向上」などが例としてあがった。3番目に多くあげられた分野は、「ICT活用能力」では、「教室でのタブレットの効果的な使い方」などの回答があり、特に高校の教師からの回答が目立った。
- 「カリキュラムや教材開発」に関する回答は10%(32名)。その中には、「コミュニケーションに焦点を当てた学習のための教材を設計する力」、「批判的思考とアクティブラーニングに焦点を当てた学習指導要領に沿った教材」などが含まれている。
- また、「学習困難を抱える生徒への支援」、「研修の一環として長期留学する機会」、「最新の第二言語習得等の理論や知識」など、様々な「その他」の希望も挙げられた。



高校

- 「最新の教育理論に基づく指導法」
- 「スローラーナー向けの授業についての研修」
- 「生徒の4技能を育成するために必要な教師自身の4技能の英語力を上げるもの。また技能を育てるための教授法や授業計画について学ぶことのできる機会の提供」
- 「英語力を維持する機会や時間の確保。特にスピーキング力の向上」

中学校

- 「他の先生方の授業実践を学びたい。また、今英語教師に求められているもの、それをどのように授業へ反映させるか、具体的な方策が知りたい」
- 「教員自身が英語を使うことを求められることが少ないので、そういう機会がある訓練があればと思います」
- 「英語教員の英語の能力、指導力を高めるための研修や学習会の開催とそのような会への積極的な参加を促す行政の推進」
- 「限られた時間で、生徒に効率よく話す・聞く・書く・読むの練習をさせること」

小学校

- 「教員自身のインプットとアウトプットがたくさんある研修が必要。特に、アウトプットをする研修はほとんどないので、スキルアップのために必要」
 - 「子どもに教えられる程度の英語力」
 - 「児童の意欲と能力を高める授業づくり」
- 韓国の教師の自由記述では、オンラインを含む、教師の研修機会を増やすことに明確な関心が示された。ブリティッシュ・カウンシルのような海外機関と連携した研修や、自身の英語力向上への関心も見られた。

5. 研修を効果的にするための提案：指導のための英語力向上

- 「日本の小学校、中学校、高校で教える英語教師のために、どのような研修が効果的か」(自由記述回答)という質問では、310という多くの回答があった。
- 「効果的な研修」についての質問であったが、4の「研修を受けたい分野」で多く寄せられた内容と重複して、「教師の英語力を向上させる」という回答が多かった(92名)。例としては、「研修により、教師が英語で授業を行うことを支援する」、「教師自身のスピーキング能力を向上させる」などがあげられている。
- 次に多いのも、英語力に関連するテーマで、「英語だけで専門的な教育を行うこと」で、回答者の8%(25名)を占めた。「研修は、教師が英語でのコミュニケーション能力を向上させるために、すべて英語で提供されるべきである」という回答などがあげられている。

- 「研修には、他の教師の授業を観察する機会を設ける」「他の教師との交流やフィードバックに重点を置く」といったコメントから、研修として授業見学を行うことの価値も、24名の教師によって指摘された。
- また、24名の教師が、研修は教師たちの置かれている状況に即して行われることでより効果的になることを示唆した。例えば、「地域のニーズを反映する」、「学校で使っている教科書・教材に基づいて設計する」などがあげられている。
- 「その他」では、「単発ではなく、継続的に研修を行えるもの」「常勤・非常勤にかかわらず、どの教師も研修を受けられるようにする」という意見があった。

高校

- 「英語を実際にきちんと使える、まずは学習者としての手本となれるよう、自ら学び続ける大切さを教えること」
- 「オーセンティックな教材を使用して、生きた英語に触れさせる指導ができる教員の育成」
- 「英語教育を通じて、生徒たちに何ができるようになってほしいのかを明確にする」
- 「自分が教わった(訳読等の)古い指導法から脱却できない教員が多いと感じるので、それが効果的でないエビデンスを示すとともに、具体的な活動の実践例」
- 「世界標準に近づくための教員育成、特に英語教員になるものは全員が留学するような制度にする」

中学校

- 「理論だけでなく、授業をしながらサポートを受ける研修が必要」
- 「子どもたちに英語の力を付けるための具体的な授業の進め方や学習評価といった教師としてのスキルと、教師自身の英語のスキルをアップさせること」
- 「実際のコミュニケーション場面で活用できる英語力について、教師自身がよく理解し、生徒の実践的なコミュニケーション能力を育成できる力が、英語教師に求められていると思います」
- 「教員自身の英語力を上げ、自信を持てるようにすること。オンラインで世界各国の英語教師と教授法などについて英語で話し合える機会があると良い」

小学校

- 「小学校の教員養成においても、中学校英語でも通用するような専門的な学習が大学においてなされるべき。日常会話が話せるぐらいになるといい」
 - 「系統性を認識して指導できること」
 - 「子どものニーズに合った英語でのコミュニケーションを行えること」
 - 「小学校教員は専門ではないことが多いため、発音や文法などに自信がなくても使える英語でのコミュニケーション力の育成」
- 中国教師からは、実用的で、実際の授業を元に設計する必要性が強く示唆された。特に、利便性と時間の柔軟性を提供するオンライン研修や、ビデオ視聴、他国の教師との協働に強い関心があった。
 - 韓国教師の回答数は76で日本と比べて少なかった。しかし日本と同様の短期的でトップダウン傾向にある従来の研修に対して、協力的で長期的、参加型活動にしていく必要性が提案された。

B. インタビュー調査結果概要

オンライン調査の回答者に対して、追加で個別インタビューへの参加を呼びかけたところ、40人が協力を申し出た。その内の11名に対し、日本語でオンラインインタビューを実施した。内訳は小学校教師3名、中学校教師3名、高校教師5名。

6. 研修内容に対するニーズ

- ここでもまた、英語能力の向上、特に英語での授業を円滑にするための高い関心が示された。また、相互の授業見学、評価、対話型授業のような新しい方法論への関心についても言及されている。
- 具体的なコメントは、以下の通り。
 - 「教室運営のスキルについてもっと学びたい。最大40人の高校生を指導しているが、中には学習規律が身につけていない生徒もいる。大人数のクラスで、授業をうまく進める方法の研修を受けたい」
 - 「自分自身の英語力を向上させたい。特に英語で授業を行う必要が出てきたので、スピーキングを向上させたい」
 - 「同僚の中には、英語を十分に話せない人がいます。海外に行ったこともないのに、英語で授業をしなければなりません」
 - 「私は、生徒にとってより必然性がある方法を学びたいです。グループワークやプロジェクトを取り入れる方法も学びたい。従来の教え方(教師中心のアプローチ)はもう通用しないような気がする。生徒が自ら英語を学ぼうとする意欲を持つことが必要です。新しい指導法を学んで、自分の教え方を変えたい」
 - 「高校では来年から新カリキュラムが導入され、知識、技能、批判的思考、積極的参加などの評価方法が変更される予定です。この新しいシステムに従って教える方法を学ぶ必要があります」
 - 「若手教師がもっと定期的にお互いの授業を観察し、フィードバックし合うことを学びたいです。マイクロ・ティーチングを導入するのはいいアイデアだと思います。若い先生方は、英語は得意でも、英語を教えるのはまだ苦手なのではないでしょうか」

7. オンライン研修に対する態度

- オンライン研修についての見解を尋ねると、ある回答者は非常に否定的で、「研修に参加する一番の理由は、他の学校の教員に会えることなので、オンライン研修は好きではない」と回答。一方、ある回答者はとても前向きに、「コロナ禍の間、例年より多くの研修に参加することができた。この状態を維持したい」と答えていた。
- インタビューに応じた教師たちは、オンラインに対して様々な態度を示し、ほとんどの人が肯定的な面(例: 利便性、コスト)と否定的な面(例: 仲間との交流の制限)の両方を認めている。
 - 「移動時間を節約できるが、オンラインによる研修を真剣に受け止めてはいません」
 - 「オンライン研修には非常に好意的だが、対面式に戻りたい。研修の双方向的な側面が恋しい」
 - 「少人数のグループであれば、オンライン研修は効果的で便利です。講師はオンライン教材を参加者と簡単に共有できる。海外の研修にも参加できる。でも私は他の参加者の表情が見える対面式も好きです」
 - 「セミナーでは内容(知識)だけでなく、教える技術も学べるので、対面式が良い。実際の教室で、さまざまな教え方を体験してみたいです。とはいえ、お金と時間を節約できるのでオンラインも良いと思います。大阪以外のセミナーにも参加できますし。また何かしながらでも、時間があればセミナーを見ることができます」
 - 「私は、他の先生方とネットワークを作るために研修に参加しているので、オンラインはあまり好きな方法ではありません。しかし、便利であること、無料で参加できること、海外の人と話す機会があることなど、多くの利点があると思います」

8. 自国政府教育機関とオンライン研修

- インタビュー回答者からの意見として、教育委員会等はオンライン研修を(しばしば参加必須)提供しているが、その質はあまり高くないという意見が挙げられた。
 - 「研修に参加すると、録画ビデオを見たり、レポートを書いたりしなければならないことがよくあります」
 - 「コースは表面的で役に立たないことが多いです。研修内容が一般的過ぎて、英語教育に特化したものではありません。特定の科目の指導に焦点を当てた研修の機会がもっと必要だと思います」
 - 「私たちの県では、初任、5年目、10年目に指定された研修があります。現在、外部組織が研修コースを運営しています。このコースでは、教師はインターネットにある録画ビデオを見るだけです」
- また、公的なオンライン研修は指導スキルに重点をおいているが、多くの教師は、指導を行うために必要な英語力の維持と向上に対するサポートを求めている。

9. リアルタイムかオンデマンド(録画)か

- インタビューでは、ZOOM での同時配信を好む傾向がはっきりと見られた。
 - 「Zoom は、他の先生方と交流できるので、私が一番好きなプラットフォームです」
 - 「YouTube よりも Zoom の方が好きです。というのも、双方向でなければ参加しないからです」
 - 「他県や海外の先生方と話ができるリアルタイムの対話型のセッションが好きです」
- しかし中には、事前に録画された形式を好む回答者もいた。
 - 「関係ない部分を飛ばすことができるので、録画が好きです」
 - 「YouTube などの録画されたものもいいです。時間のある時に戻って再開できるような形式がいい」

10. 今後の研修

- インタビュー回答者は総じて、コロナ禍後も、オンライン研修の中には継続して提供されると考えていた。回答者自身がオンラインを続けていくのか、それとももっと対面形式に戻るかについては、教師の意見はそれぞれだった。
 - 「オンラインは便利なので続けたい。私は忙しく、物理的にセミナーに参加できないことが多いので」
 - 「オンラインは私の住む岡山県以外の先生方との交流に役立つので今後も継続すると思いますが、なるべく早く対面式に戻したいです」
 - 「オンラインと対面式の両方の長所と短所があるので、両方残ると思います」

以下のインタビュー結果については調査報告書(英文)をご覧ください。

- 参加したオンライン研修の内容、中国及び韓国の回答結果

以上